

五行歌近詠二十二首

2015年3月16日

佐藤 治

終戦の日の夜
暗澹たる気持で
見上げた空に
絶望の闇と
希望の星が

国破れて
山河あり
引揚船から見た
祖国の青い山河
全てが一瞬にして溶解

マダム・ダワイと
ロシア兵が
激しく戸を叩く
棍棒を握った
親父の殺気

一緒に
引揚げてきた
朋友との固い絆
一緒に
死の淵を覗いたから

追われるように
家を出て
引揚集結地へ
直後掠奪が
孔孟の国の闇

田螺、蝗、水団
空きっ腹には
何でもうまかった
戦後の貧困の中の
大きな幸せ

引揚げの途中で
人がバタバタ死んでいく
死ぬ時は死ぬ
生きてる時は
必死で生きようと決めた

引揚げ後の
どん底生活
親父とお袋が
よくひそひそ話を
辛かっただろうなあ

引揚船から
幼な子の骸が
次々水葬に
耐えきれず
不条理に嗚咽した

引揚げで無一物に
伊勢湾台風で
家を流され
泣くお袋に
泣くなと言って泣いた

僕は満洲育ちの

異邦人

転々

流浪の民

生涯旅人

人生 いいときも

どうしようもないときも

ある

挫けず耐えて戦って

謙虚に朝を待つ

大学の同期生で

敗戦前後の自分史を

つくる

かけがえのない記録

孫たちに読ませたい

小1の孫と

ボールを蹴る

強く弱く

右へ左へ

DNAが繋がる

中・韓・真珠湾から

広島・長崎まで

歴史の総括を

避けてきた

日本の罪と罰

お母さん

やみくもに

子どもを叱らないで

初々しい万能細胞を

つぶさないで

戦後七十年

いつか来た道

真っ平ご免だ

はらからよ

これでよいと言うのか

秋田の杣仲間と

東京で忘年会

この青空が

大ご馳走と

深呼吸して帰る

戦後七十年

歴史は繰り返す

戦争と平和

トルストイを

読み直す

雲が切れて

お陽さんが

顔を出す

元気かい

無理すんなよと

道徳律が失せ

世界は混沌の中

自由と規律

権利と義務を

問い直さなければ

若者の甘え

年寄の渋さ

甘えを克服し

渋さを活かす

日本の糊しろ